

令和3年度 杉並区立東原中学校 学校関係者評価委員会報告書

新型コロナにより多くの制約が生じた中、令和3年度教育課程も終了できる見通しが立ちました。入学式、卒業式、運動会、合唱祭、授業参観等ほとんど保護者・地域の方には満足できなかった1年かと思量します。そのような中で学校調査については従来通りの分析がなされデータが提示された。以下に主に教育調査結果について感想を記述したい。教育調査は学校経営、学習指導および特別支援教育の分野で生徒と保護者に対して実施された。

生徒の視点からは個別指導や課題別指導等において満足できない評価が多かった。生徒が塾での勉強が主体となった生活になっていることも考えられる。地域への参加や協働についても満ち足りていない様子がうかがえるが新型コロナによる対人活動が制限されてことも大きな要因に思える。

各種調査において、公立中学校の授業については、クラスのどのレベルの生徒に的を絞るか非常に苦慮すると思うが、義務教育ということを考えれば落伍する生徒を出さないようにすることが必須である。学校支援本部もこの分野については長い間勉強会を実施してきたが結果として個人指導や生徒の自由な発想による勉強が出来ないことが生じるのは致し方ない事である。そこで注意すべきは教員と生徒の間で信頼関係を築く事である。この信頼関係こそが生徒の将来にあっても大切な人生体験となるはずである。

保護者から見ると教育相談やいじめ等の相談体制への期待感が強い。PTAを中心に活動が展開されていると思うが学校内に教員・地域・学識経験者などからなるチームを作り保護者が気楽に相談出来る様な仕組みや落ち着いた部屋の整備が望まれる。保護者の中には誰とも相談できない立場の人が増えているのは全国的な問題で文科省も対策に苦慮している筈である。

東原中学校では教育調査で浮かび上がった課題について学校便りなどで丁寧に公表している。いっぽう学校便りを読んでいる生徒も多くはない。学校と保護者間のコミュニケーションの一層の充実を図る体制作りが必要に感じる。その結果生徒も保護者も東原中学校へ行くのが楽しくて仕方ないという様になることを願うところです。令和4年度に学校運営協議会や教員がチームを作り学校を取り巻く種々の課題に対し、少しでも貢献できるような方向を目指したい。

学校関係者評価委員会会長（学校運営協議会会長） 眞下 進